

第2回ショートレター応募作品40選

最優秀賞

タイトル 「お母さんへ」

わたしの足にあるあさを、友だちがばかにした日。「いやな思いをさせて、ごめんね。」とないたお母さん。気にしないでいいんだよ。あざもふくめて全部、私の体はお母さんからもらった大事なたから物なんだから。

ジャンル ②

優秀賞

タイトル 「お母さんへ」

障害者で役立たずなのにお父さんより長生きしちゃった、ってお母さんは言うけど、私を生んでくれたじゃない。それだけで一世一代の大仕事。お父さんも天国で、お前には負けたよ、って笑ってる。長生きしてね。

ジャンル ②

優秀賞

タイトル 「亡き祖母へ」

「自分の信じる道を歩いたらいいよ、男も女も関係ない。今はそれができる時代なんだから・・・。」私が悩んでいた時、おばあちゃんが言ってくれたあの言葉、あの言葉が今の私を支えています。ありがとう。

ジャンル ①

佳作

タイトル 「母さんへ」

母さんの布団にもぐり「高校辞めたい」と言った時「気がつかんでゴメンね」と泣きながら抱きしめてくれたね。二人で沢山泣いたから、一人じゃないと分かったから、足踏みしたけど高校を卒業出来たよ。ありがとう。

ジャンル ②

佳作

タイトル 「同じ職場のKさんへ」

はじめてあなたの車椅子に乗せてもらって、あなたのいる世界が分かりました。いままで理解や思いやりが足りなくてごめんなさい・・・これからは、自分の歩幅だけでなく、あなたの車椅子の横幅で歩くことを意識します。

ジャンル ⑨

佳作

タイトル 「母へ」

私は出産予定日のだいぶ前に息子を産んだ。小さく産んだ自分を責め、「小さい」と言う人の声に傷つく私に「この子は早くママに会いたかったんやねえ」と言った母。あなたの言葉にどれほど救われたでしょう。

ジャンル ②

佳作

タイトル 「おとうさんへ」

肉体労働者のお父さんは汗臭くて家に帰れば寝てばかり。恥ずかしくて大嫌いだった。でも社会人になってわかったの。働くってことがどれだけ大変なことかどれほど疲れることか。お父さんのようにいい汗かいて働くね。

ジャンル ②

佳作

タイトル 「中学の時の先生へ」

「お前は全然悪くないよ！」担任でもないのに味方をして、毎日のように話を聞き、励まし続けて下さった先生。先生がいたからいじめを乗り越えることが出来た。私ももうすぐ20歳。大人になった私を見て欲しいです。

ジャンル ⑨

審査員特別賞

タイトル 「妊婦さんへ」

あの時の妊婦さんへ 覚えていますか？重い荷物を持ってバスに乗ってきた時、私は胸がはりさけそうな気持ちで、「あの、ここどうぞ。」すごい気持ちよかったです。ゆずり合いの体験をさせてくれてありがとうございます。

ジャンル ⑭

審査員特別賞

タイトル 「夫へ」

趣味の畑に精出すあなた。折角の収穫を虫や鳥に先採りされて腹を立てる私にあなたは笑って言いましたね。「仕方ないさ。皆生きてるんだから。腹は横にしときなよ」人にも生き物にも優しいあなたが私の大きな誇りです。

ジャンル ③

入賞

タイトル 「お母さんへ」

「生んでくれなんて頼んでない」と反抗したら「いのちをかけて生んだのよ」って。くじけそうになるとその言葉を思いだして歩いていける。わたしのいのちは二人分の重みがあるんだよね。頑張るね。ありがとう。

ジャンル ②

入賞

タイトル 「車椅子の障害者A君」

施設入所おめでとう。いつか東京に行った時駅やデパートの階段で困ってた僕らを助けてくれた人達がいたよね。皆無言だった。いいなと思った。僕もそうしていくつもりだ。人の関りを大切にして生きていってほしい。

ジャンル ⑭

入賞

タイトル 「姉へ」

昭和三十年代。出席簿、学籍簿、諸名簿を、男女混合の生年月日順にしたこと。上司から修正の命令が。その時、男女同権を訴えて抵抗したが負けた。「未だ、人権は遠い」と泣いた姉の姿に驚きもした。しかし、感動した。

ジャンル ⑤

入賞

タイトル 「テレビを見て笑っている息子へ」

「人の不幸は蜜の味」とばかりに出演者を馬鹿にしてセクハラして笑い転げているような司会者の番組を楽しんでいると、知らぬまに自分より弱い人に同じ事してしまう愚かさが人間にあることの怖さを知って欲しい。

ジャンル ④

入賞

タイトル 「弟へ」

人を大切に、優しくできる人は、人間の痛みや悲しみを本当に知っている人なんだな。交通事故で片足が不自由になった弟。最初は荒れていたけど、近頃は妙に優しくなったな。こっちも優しさを二倍にして返すよ。

ジャンル ⑤

入賞

タイトル 「父へ」

惚けた母を最期まで看病した父。息子の名前まで忘れてしまった母を見るのは辛かったろうに。父は献身的に看病してた。惚けても母は母。一人の人間として祖母を扱う父を私はいまも尊敬している。

ジャンル ②

入賞

タイトル 「和歌山に一人で住む母へ」

83才の母さんに車イス押ししてもらわなきゃいけないの、悲しくて涙があふれました。する事逆だね。でも母さんは私が車イスでもでかけられるようになったことを感謝しなさいと・・・元気に長生きして！母さん。

ジャンル ②

入賞

タイトル 「天国の母ちゃんへ」

母ちゃんの作ってくれる弁当、いつも梅干しと漬物だった。「こんなの嫌だ！」って放り投げて困らせた時、あの時、つらかったでしょうね。母ちゃん・・・それを今、すごく、悔やんでいます。天国の母ちゃん、ごめん・・・。

ジャンル ②

入賞

タイトル 「私の大事な3人の友へ」

「友達なんかいない」中学の時イジメにあった私は本気でそう思っていた。こんな私に声をかけてくれた3人の友。あなた達のおかげで友情を知りました。これからもよろしくね！

ジャンル ⑦

入賞

タイトル 「友達鈴木君へ」

「人権なんて大きな問題。俺らにはどうすることもできない」確かにそうだよ。でも思いやりの心を持とうよ。その心の輪が広がれば僕達の中だけでもお互いを尊重できるだろう？小さな事から始めてみようよ！

ジャンル ⑦

入選

タイトル 「お祖母さんの誕生日」

お母さん、誕生日おめでとうございます。小学四年になった雅樹が、学校で発表した「僕の夢」は何と「お祖母さんが百歳になったら送るバースディケーキ」でした。その時は、雅樹も35歳、どうか雅樹の夢を叶えて下さい。

ジャンル ①

入選

タイトル 「娘へ」

「仕事が楽しい」ポツンと言われた時、未だに伴侶に恵まれない事のみを気に揉み、一人焦っていたことに気づいた。年数回の海外出張をこなし、企業人としての根を張った生き方を改めて応援したい。

ジャンル ④

入選

タイトル 「お母さんへ」

わたしの一日は、お母さんのどなり声から始まって、お母さんのどなり声で終わるよね。それでもわたしは朝の、「いってらっしゃい！」の一言が大すきだよ。いつも元気をありがとう。これからも、そんなお母さんでいてね。

ジャンル ②

入選

タイトル 「おじいちゃんへ」

腰が曲がったら手をひっぱってあげる。歩けなくなったらおぶってあげる。目が白く濁ってきたら、新聞を読んであげる。見えなくなったら、困った時に飛んでいく。だから安心していいよ。今度はぼくが優しくする番。

ジャンル ①

入選

タイトル 「母へ」

「こんなに苦しむなら、もう死にたい。」そう言った私に言ってくれたよね。「この世に生きているからには何か役割があるんだよ。それを終えてからでないと人は死ねないんだよ。」ママの役割は私を生かすことだったんだね。

ジャンル ②

入選

タイトル 「父さんへ」

娘の私を見たおばあちゃんが「立派な息子さんですね」と父さんに言った時「良か跡取りばい」と答えたね。優しい父さんの心遣いは笑顔の花を咲かせたよ。父さんは天国に行ったけど、心は今も私の中で生きてるよ。

ジャンル ②

入選

タイトル 「ひかり園のみなさん」

うれしくてその時A君は何回も飛上った。B子さんは手を頭の上で大きく叩いた。C君も大きく叫んだ。仲良し3人組だ。みんなが歌ったらホールは大きく割れるように揺れたネ。希望と夢を持ち続け明るく生きようネ。

ジャンル ⑱

入選

タイトル 「祖母へ」

昨日おばあちゃんの下着を洗ったよ。継ぎはぎの長袖のシャツ。思えば97年の人生で心も体も継ぎはぎだらけなんだね。このシャツも自分の身を繕うように一生懸命に繕ったんだね。陽のいっぱい当たる一等席に干したよ。

ジャンル ①

入選

タイトル 「母へ」

どんな嫌な人にも笑顔で接する母。理由を聞くと「こっちも相手もいい気持ちになるでしょ」の一言。とても自分には真似できないと思ったけど、社会人になった現在母の言葉の正さが身に染みてわかります。

ジャンル ②

入選

タイトル 「主人の母へ」

いつまでたっても孫を見せられない 私達に何も言わずにいてくれてありがとう そんなお母さんの息子も本当の優しさを知っています。

ジャンル ②

入選

タイトル 「お父ちゃんへ」

「キレイやで」もつれた舌で、最期までほめつづけてくれましたね。綺麗でもない私が、元気でやってこれたのは、お父ちゃんの、恥ずかしいほどの親バカのお陰だと思っています。

ジャンル ②

入選

タイトル 「Y監督へ」

「ダンプが入りますから誘導してください」あなたは若い監督なのに、ガードマンにも作業員にもていねいな言葉で話します。そんな口をきき虫けらみたいに扱う人の多い社会の中で相手の人権を認めた有為な青年です。

ジャンル ⑨

入選

タイトル 「選挙管理委員会の皆様へ」

知人に筋萎縮性側索硬化症にかかっている人がいます。彼は、字が書けないので選挙に参加できないと言っています。投票したいのに、選挙権があるのに参加できないのです。そういう人の代理投票を認めて下さい。

ジャンル ⑰

入選

タイトル 「耳を形成した弟へ」

お前の片方の耳はなかったが、今は手術も終わって、包帯を外すだけだ。こうして手術したのは人の目が気になるからだよな。だけど気にするな。お前もみんなも、お互いの違いを認めることが大切だと知っているから。

ジャンル ⑤

入選

タイトル 「知人へ」

たとえ光を失っても、暗闇の世界ではない。盲導犬と一緒にいるから、どこまでだって歩いていける。私の目の代わりに盲導犬が見ていてくれ、どんなことでも心の目に映してくれると、教えてくれたのはあなたです。

ジャンル ⑦

入選

タイトル 「中学一年生の次男へ」

驚くかもしれないけど母さんもいじめられっ子だった。でも中学生になってこれでは自分がかawaiiそうと思って強くなろうって決心したの。自分にもっと自信を持つ事も大切ね。あなたの後ろにいつも母さんがいるからね。

ジャンル ④

入選

タイトル 「家族へ」

家族といえる時が一番楽しい、一番家族りよこうに行のが楽しい。いっしょにごはんを食べるのはあんまりないので、家族ですっごはんをいっしょに食べたいです。とくにお父さんの顔は朝しか見ないので夜も見たいです。

ジャンル ⑬

入選

タイトル 「おかあさんへ」

私が世間の人に誤解され、無視されたり白い目で見られ生きるのが困難になった時、「私はあんたの味方だよ。いいじゃないの、人なんか気にしない。」と世間よりも私という人間を重んじてくれたことに感謝しています。

ジャンル ②

入選

タイトル 「昔からの街の人たちへ」

昔の通り「今日は！」が一番です。手足不自由になっても優しさの言葉は要らない。同情(言葉)は差別の壁を築き辛さを呼び覚ますから。命ある間、普通と認めて接してくれる方がはるかに優しく嬉しく感じます。

ジャンル ⑭

入選

タイトル 「母へ」

あなたは最近長崎の事件のせいか、監視の目を強めていると思います。あなたの息子はそんなに信頼できないですか。息子にも人格があり一人の人間で、あなたの所有物ではないのです。大きな心で見守ってください。

ジャンル ②